

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(令和3年度)(検討会への報告案)

2. 分野別状況(2)地域活性化総合特区 ④観光等分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
京都市地域活性化総合特区 (京都市、京都府)	4.3	4.3 進捗度 ・再来訪意向及び紹介意向 99% ・年間観光消費総額 -% ・特定伝統料理海外普及事業における外国人料理人の延べ受入れ人数 100%	4.4 規制の特例等 ・特定伝統料理海外普及事業等 財政支援等 ・総合特区支援利子補給金 地域独自の取組 ・京町家まちづくりファンド等	4.3	<p>・「京都観光振興計画2025」で「市民、観光客、観光事業者・従事者」の3者の満足度を高める観光を目指しているという観点から、ぜひ「市民意識調査」を踏まえた市民目線での施策評価を期待したい。さらに、インバウンド客の急増で建築物の観光客向けの転用が進んだと思われるが、コロナ禍でインバウンド客が急減し、京町家をはじめとする建築物をめぐる状況が激しく変化していることが想定され、そのような状況の把握と対応についても検討が必要である。</p> <p>・特定伝統料理海外普及事業においては、研修受け入れ人数拡大の方向性を示し、また帰国した料理人をフォローして具体的な成果を求めるなど着実な推進が見られる。伝統的な日本料理や食文化は一朝一夕に築けるものではなく、本件は官民連携による好事例として評価されるべき。</p> <p>・オーバーツーリズムと言われ続けた京都の新たな挑戦は、国内のモデルとなることを期待する。</p> <p>・指標1は「持続的な観光」の実現のため観光の質的向上を図る上で重要な指標であるが、コロナ禍、日本人観光客のみの結果でも目標が未達成ということは懸念材料である。要因として「混雑」「想定よりも訪問者が多かった」などが挙げられているが、海外からの来訪が戻ってくれば状況はより悪化することが想定される。住民や事業者の満足度を高めていくためにも、例えば歩行者優先の道路空間の実現や、交通機関、観光施設の利用制限等、より積極的な観光客マネジメントを試みていくことも必要である。</p>